

# 安全データシート

作成日 2015年11月30日

改訂日 2026年03月19日

## 1. 化学品及び会社情報

製品名：1.5%アンモニア水

製造元：協和純薬工業株式会社

東京都北区浮間 4-16-28

TEL 03-3968-7441

FAX 03-3969-0049

販売元：株式会社ウチダテクノ

東京都中央区新川 1-10-14

TEL 03-5657-4072

FAX 03-5657-4082

## 2. 危険有害性の要約

### GHS 分類

健康に対する有害性	皮膚腐食性/刺激性	: 区分 1
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 区分 1
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 区分 2 (中枢神経系、呼吸器)

※上記で記載がない危険有害性は「区分に該当しない」又は「分類できない」

### GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

: 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷  
重篤な眼の損傷  
中枢神経系、呼吸器の障害のおそれ

注意書き

安全対策

: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。  
取扱い後は手や顔などをよく洗うこと。  
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

応急措置

: 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。  
皮膚 (又は髪) に付着した場合、直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。  
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

- ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。  
直ちに医師に連絡すること。  
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
- 保管 : 施錠して保管すること。
- 廃棄 : 内容物／容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理すること。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

化学名	含有量(w/w)	化学式	分子量	化審法	CAS No.
アンモニア水	約 1.5%	NH <sub>3</sub>	17.03	(1)-314	1336-21-6

※これらの値は製品規格値ではありません。

### 4. 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは、医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。皮膚刺激が生じた時は、医師の診断／手当てを受けること。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師の診断／手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 水で口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師の診断／手当てを受けること。
- 応急措置をする者の保護 : ゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用すること。
- 急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状 : 眼、皮膚、気道に対して腐食性を示す。高濃度の蒸気を吸入すると、喉頭水腫、気道の炎症、肺炎を起こすことがある。これらの影響は遅れて現れることがある。

### 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水、粉末、二酸化炭素、泡、乾燥砂
- 使ってはならない消火剤 : 棒状放水
- 火災時の特有の危険有害性 : 火災の際、熱分解又は燃焼により刺激性及び／又は有害性の強いガスが発生するおそれがある。アンモニアの蒸気はある条件下で引火性、爆発性である。加熱により、アンモニアガスが発生することがあるので注意する。
- 特有の消火方法 : 速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合には、容器及び周囲に散水して冷却する。消火作業は、風上から行う。
- 消火活動を行う者の保護 : 適切な保護具を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

: 漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ミスト／蒸気／ガス等を吸入しないようにする。風上から作業して風下の人を退避させる。

環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

: 漏出した液は、密閉できる空容器に回収する。  
漏出した場所は、希酸を散布して中和し、水で十分に洗い流す。

二次災害の防止策 : 危険でなければ漏れを止める。汚染箇所をよく洗浄する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 酸性物質との接触を避ける。必要に応じて局所排気装置を使用する。

注意事項 : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。漏れ、溢れ、飛散等しないようにし、みだりに粉じんや蒸気を発生させない。使用後は容器を密閉する。指定された場所以外では飲食又は喫煙をしてはならない。取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

安全取扱い注意事項 : 皮膚、眼、衣類との接触を避ける。個人用保護具を着用すること。

衛生対策 : 取扱い後は手をよく洗うこと。

保管

安全な保管条件 : 直射日光を避け、換気のよいなるべく涼しい場所に密閉して保管する。  
混触危険物質から離して保管する。「10. 安定性及び反応性」参照。

安全な容器包装材料 : ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等

## 8. ばく露防止及び保護措置

化学名	管理濃度 (作業環境評価基準)	許容濃度 (日本産業衛生学会)	許容濃度 (ACGIH)
アンモニア水	未設定	最大許容濃度 25ppm, 17mg/m <sup>3</sup> (アンモニアとして)	TWA ; 25ppm STEL ; 35ppm (アンモニアとして)

設備対策 : 屋内作業場での使用の場合は、発生源の密閉化又は局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

呼吸用保護具 : 防毒マスク (アンモニア用)

手の保護具 : 不浸透性保護手袋

眼/顔面の保護具	: 側板付き保護眼鏡 (必要によりゴーグル型または全面保護眼鏡)
皮膚及び身体の保護具	: 長袖作業衣、長靴

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
色	: 無色透明
臭い	: 刺激臭
融点/凝固点	: データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	: データなし
可燃性	: 不燃性 (アンモニア水自体は不燃性であるが、アンモニアガスは引火性)
爆発範囲	: データなし
引火点	: データなし
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
pH	: 強塩基性
動粘性率	: データなし
溶解度	: 水と自由に混和、エタノールに可溶
n-オクタノール水分分配係数(log 値)	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び/又は相対密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	: データなし
化学的安定性	: 通常の手扱いにおいては安定している。
危険有害反応可能性	: 酸と激しく反応する。加熱すると有害なアンモニアガスが発生する。多くの金属を侵して引火性/爆発性気体(水素)を生じる。多くの重金属及び重金属塩と反応し、爆発性化合物を生じることがある。
避けるべき条件	: 日光、熱、混触危険物質との接触
混触危険物質	: 酸、酸化剤、重金属、重金属塩、金属
危険有害な分解生成物	: 窒素酸化物

## 11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: 区分に該当しない ラット LD50=350mg/kg
急性毒性 (経皮)	: データなし
急性毒性 (吸入)	: データなし
皮膚腐食性/刺激性	: (水酸化アンモニウム) ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、本

物質の 20%水溶液の適用により腐食性を示したとの報告があり (SIDS (2008))、本物質は強アルカリ性のため、眼や皮膚に対して腐食性を示すとの記載がある (SIDS (2008))。よって区分 1 とした。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

: (水酸化アンモニウム) ウサギの眼に本物質 1mg を適用した試験において刺激性がみられたとの報告 (SIDS (2008)) や、ラットの眼に 28.5%水溶液を適用した試験で、角膜白濁や混濁など回復性のない角膜障害や血管新生が認められたとの報告がある (HSDB (Access on June 2014))。また、本物質は強アルカリ性のため、眼や皮膚に対して腐食性を示すとの記載 (SIDS (2008)) や、粘膜に対して著しい刺激性を示すとの記載がある (HSDB (Access on June 2014))。よって区分 1 とした。

呼吸器感作性

: データなし

皮膚感作性

: データなし

生殖細胞変異原性

: データなし

発がん性

: データなし

国際機関等の発がん性分類はない。

生殖毒性

: データなし

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

: (水酸化アンモニウム) 本物質はヒトに気道刺激性があり、気道粘膜の重度の刺激や痛みを引き起こす。また、経口経路で口、喉、胃に重度の腐食性がある (HSDB (Access on June 2014))。吸入ばく露や経皮ばく露で神経学的影響が知られており、通常、直接ばく露部位の視力障害に限定されるが、より重度のばく露では血中アンモニア濃度の上昇を引き起こし、発作、昏睡、非特異的びまん性脳障害、筋力低下、深部腱反射減少、意識消失を生じ死に至る (ATSDR (2004))。本物質を経口摂取し死亡した疫学事例で、剖検の結果、食道、胃、十二指腸に出血が見られた。家庭用アンモニア (水酸化アンモニウム) を経口摂取した事例では、食道の病変及び浮腫、急性呼吸障害が報告されている (ATSDR (2004))。作業者がタンクから溢れた本物質の高濃度 (10,000 ppm) にばく露された事例では、直ちに咳、嘔吐、呼吸困難、努力呼吸が現れ、ばく露 6 時間後に死亡した。解剖の結果、気道の著しい炎症、気管上皮の重度の剥離が報告されている (HSDB (Access on June 2014))。以上より、区分 1 (中枢神経系、呼吸器)、含有量に基づき本製品は区分 2 (中枢神経系、呼吸器) とした。

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

: データなし

誤えん有害性

: データなし

## 12. 環境影響情報

### 生態毒性

水生環境有害性 短期（急性）

: 区分に該当しない

魚類（ニジマス） LC50=26.8mg/L/96hr

（水酸化アンモニウム換算値、被験物質；NH4Cl, pH: 8.29）

水生環境有害性 長期（慢性）

: 区分に該当しない

甲殻類（ミシドシュリンブ） NOEC=7.1mg/L/32days

（水酸化アンモニウム換算値、被験物質；NH4Cl, pH: 7.92-8.01）

残留性／分解性

: 急速分解性あり

生体蓄積性

: データなし

土壌中の移動性

: データなし

オゾン層への有害影響

: データなし

---

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

: 廃棄においては、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。本製品を含む廃液及び洗浄廃水を、直接河川等に排出したりそのまま埋め立てたり投棄することは避ける。

汚染容器及び包装

: 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。汚染容器においては、関連法規並びに地方自治体の条例に従って適切な処分を行うこと。

---

## 14. 輸送上の注意

### 国際規制

国連番号

: 3266

品名（国連輸送名）

: その他の腐食性物質（無機物、液体、アルカリ性のもの）

国連分類

: 8

容器等級

: III

海洋汚染物質

: 非該当

陸上規制情報

: ADR/RID の規定に従う

海上規制情報

: IMDG の規定に従う

航空規制情報

: ICAO/IATA の規定に従う

### 国内規制

陸上規制情報

: 道路法/消防法/毒劇法の規定に従う

海上規制情報

: 船舶安全法の規定に従う

航空規制情報

: 航空法の規定に従う

特別な安全上の対策

: 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないよう

に積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。重量物を上積みしない。

---

## 15. 適用法令

労働安全衛生法	: 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第 57 条） 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 57 条の 2） 特定化学物質第 3 類（特定化学物質障害予防規則）
毒物及び劇物取締法	: 非該当
化学物質排出把握管理促進法（PRTR 法）	: 非該当
消防法	: 非該当
大気汚染防止法	: 特定物質「アンモニア」（政令第 10 条）
海洋汚染防止法	: 有害液体物質 Y 類物質「28 重量%以下のアンモニア水」
船舶安全法	: 腐食性物質 分類 8
航空法	: 腐食性物質 分類 8

---

## 16. その他の情報

この SDS は JIS Z 7253 : 2019 に準拠し、作成時における最新の資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、記載内容は通常取り扱いを対象にしたもので、特殊な取り扱いをされる場合には十分な安全対策を実施の上、製品を使用して下さい。SDS の目的は、当該製品を安全に取り扱っていただくための情報を提供するものです。記載内容は製品の性能について何ら保証するものではありません。全ての製品にはまだ明らかでない危険性を有する可能性がありますので、取り扱いには十分ご注意ください。

### ※参考文献

独立行政法人製品評価技術基盤機構「化学物質総合情報提供システム(NITE-CHRIP)」

独立行政法人製品評価技術基盤機構「GHS 混合物分類判定ラベル/SDS 作成支援システム(NITE-Gmiccs)」

JIS Z 7252:2019「GHS に基づく化学物質の分類方法」

経済産業省「事業者向け GHS 分類ガイダンス（令和元年度改訂版 ver.2.0）」

中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター「GHS モデル SDS 情報」

共立出版株式会社「化学大辞典」

原料メーカー SDS